



広重版画より 三島 朝霧

第2331回例会

2022.9.1曇

司 会 南木一仁君

国歌斉唱 四つのテスト

ロータリーソング 「奉仕の理想」
指揮 小塚英樹君

会長挨拶 会長 花房孝光君

昨日で夏休みも終わり、今日は制服の楽しそうな生徒の姿がありました。

今年は3年ぶりに行動制限のない夏休みになりましたので伊豆半島は久しぶりに観光客でにぎわっておりました。

例年はお盆の時期が過ぎるとお客様が例年徐々に減少していくのですが今年は8月最終の日曜日まで満室の状態でした。

コロナ禍は相変わらず続いており賛否のご意見があるのは承知していますが、本日久しぶりに皆様とお会いし、お話をする中で顔を見て話し合う・行動する大切さを再認識いたしました。

コロナウイルスは身近まで迫ってきました。

今後もどうなっていくかわかりませんが、ご理解とご協力よろしくお願ひ致します。

出席報告

	出席総数	出席率	メンバー	出席正率
前々回	49/54	90.74%	51/54	94.44%
今回	41/51	80.39%	会員総数	55名

欠席者 芦川君、川名君、窪田君、栗原(康)君、諏訪部(照)君、千葉君、橋本君、町野君、矢野君、渡邊君

スマイルボックス

- ◆ 森崎君、母の葬儀には多くの皆様に通夜において頂き、誠にありがとうございました。97歳の天寿を全うし家族葬を無事済ませることが出来ました。ありがとうございました。
- ◆ 遠藤(真)君、①ロータリー入会40年になりました。②8月に3人目のひ孫が誕生しました。女の子です。
- ◆ 和田君、久しぶりに皆様の元気なお顔が見れてうれしいです。
- ◆ 内田君、会員増強・維持の卓話が流れたので、資料配布のみとさせていただきます。
- ◆ 室伏君、久しぶりの三島大祭り、ホテルも久しぶりのにぎわいでした。

幹事報告

幹事 古屋英将君

- ①9月の予定
第1、第2はお弁当の持ち帰り対応、第3は状況確認し決めます。
- ②7月予定していた決算報告は本日行います。
- ③今月はロータリーの友月間です。本日の卓話 クラブ広報委員長の森藤さんです。
- ④8日の第2夜間例会はガバナー公式訪問です。
- ⑤三島西RC主催のチャリティーコンサートは9月22日に延期しました。
- ⑥10月からのテーブルは長期の休会により変更なしで現状のまま継続します。
- ⑦地区大会が11月6日に静岡市にて行われます。登録締め切りは9月22日です。
- ⑧IMに付いて。2月5日→2月4日に変更します。詳細が決定次第、正式に案内します。

おめでとう

会員誕生日 桐部君
 入会記念日 古屋君、横溝君、秋山君、西川君、
 野田君、遠藤(眞)君、秋元君
 奥様誕生日 野田君、森崎君、横溝君、内田君、
 秋元君
 結婚記念日 藤江君、岩崎君、酒井君

卓 話

会員増強・維持セミナー報告

会員増強・維持委員長 内田満洋君

国際ロータリー第2620地区会員増強・維持セミナー

2022年7月30日静岡市グランシップにて、参加させていただきました。

増強の結論、新規の方に何を一番お奨めすべきか、「楽しめる」という事。

維持の結論、同じく「楽しめているか」という事。

同好会や飲食の席、奉仕活動、仲間が増える、異業種交流などという事を説明し、勧誘すると良いとの事です。

セミナーということで、講師に「1年間で50名増強した男」高崎RCの田中久夫さんが1時間ほどの講習をしてくださいました。現ガバナー、パストガバナー、委員会同様に増強と維持に注力しましょう。という強い意思と挨拶にて終了しました。

一セミナーで仕入れたデータ■

- 日本のロータリークラブ平均会員数= 38名
- ひとクラブの運営理想人数は60名
- 40歳前後を狙うと高確率・1番最初に声を掛けた組織に加入する傾向

• 初訪、クロージングという原理。複数名による勧誘手法

■ 当クラブ及び近隣クラブの分析 ※別紙参照01～02 データをグラフ化してみました。

結論=特に偏った異常はありません。

- 人数55名、他34、28、41、理想60名に近い。
- 年代別分布は棒グラフを参照。理想の階段状態である。
- 男女比5.5%、日本平均7.0%、少しがんばりたい。
- 卓話者個人的見解一

とにかく各自自身が楽しむことへの執着により、増強にも維持にも繋がるのではなからうかと思えます。

当クラブ、全員仲良い良好な関係という事は周知の事実。

既存のミセスロータリー活性化、若年層ミセスの新規加盟。別視点では、蕎麦同好会やバーベQ同好会、釣り同好会などと、同好会というか、学生に戻った気分の部活動的な発想は、いかがでしょうか、と思っています。

「ロータリーの友」について

クラブ広報委員長 森藤 賢君

アメリカの国際ロータリー本部で編集発行しているRIの機関雑誌「ROTARY」に加え、RIに認可された地域雑誌を「機関雑誌」として定義されます。これらの雑誌は全世界に30誌以上あり、「ロータリーの友」もその一部です。どの雑誌も共通しているのは、RI会長メッセージなどRIが指定する記事を掲載していることです。

その前に「ロータリーの友月間」ですが、こちらは国際ロータリーで定める月間ではありませんが、前身の「雑誌月間」がなくなり、多くのロータリアンの方々から「雑誌月間」は残せないのかとの要望があり、ロータリーの友委員会ならびに同理事会で検討し「ロータリーの友月間」を平成27年に新設することになりました。ロータリーの友委員会としては雑誌の一般的な事ではなく、「ロータリーの友」に焦点を当てることによってさまざまなロータリー情報について知っていただく機会になればと考えているようです。

では「ロータリーの友」ですが、1952年7月、日本のロータリーが2地区に分割されるに際し、両地区の親睦、情報交換とあわせて購読義務のあった機関紙「The Rotarian」の記事の一部の翻訳文の掲載を目的に、月刊誌の発行をガバナーが協議・合意し誌名は「ロータリーの友」と決め、RIとは無関係に、両地区内の会員誌として翌1953年1月号から両地区の協同発行となったものです。第一回の準備会は大阪で、当時の星野ガバナーと露口氏の両名が幹事役となって東京・横浜・京都・大阪・神戸の各クラブの代表者が出席して開催されました。毎月発行すること、価格は50円とするが、広告料をとって100円分の内容のある雑誌とすることで決定されました。現在でも広告は友事務所にとって大事な収入源となっております。初回の発行部数は3,300部でありました。現在は91,600部となっております。当初は横書きでスタートした「ロータリーの友」ですが、その後俳句など横組みでは具合の悪い欄が掲載されるようになりこれらを縦書きで入れる様になりました。1972年1月号から縦書き、横書きを分けてそれぞれ表紙をつけて左側から開けると横書き、右側から開けると縦書きという形の雑誌になりました。1977年、ロータリークラブ定款第10条の改定に伴い、公式地域雑誌(現ロータリー地域雑誌)の規定が設けられました。これにより、ロータリアンは国際ロータリーの機関紙だけでなく、RIが指定した公式地域雑誌を購読することで、会員としての義務を果たすことができるようになりました。2003年1月に創刊50周年を迎えるにあたって、これまでの良い伝統は継続しながら新しい50年のスタートにふさわしい新鮮な「ロータリーの友」にするにはどうしたらいいか2001年秋から検討に入り、2002年7月号から紙面を一新しました。サイズをB5判からA4判へ、またカラー写真のページを巻頭に持ってくるなどして親しみやすい「ロータリーの友」をめざしました。その後、技術の進歩と同時にリニューアルを繰り返し、2014年1月号からは電子版を発行するようになり、最新号は毎月1日に更新されるようになり、更に内容も委員の皆さんにより検討され、より楽しく親しみのある「ロータリーの友」になりつつ現在に至っております。2023年1月号で創刊70周年を迎えます。これからも「ロータリーの友」をさらなる関心をもって読んでいただけたらと思います。

(週報担当:森藤 賢)